

●●● | RM&FP NEWS LETTER



リスクマネジメント&ファイナンシャルプランニング

2015年 冬 第 93号 By FP Compass

◇降雪や吹雪による視程障害とは？

冬になると、道路の凍結や積雪が気になりますが、それだけではなく、視界が悪くなることが車の運転に大きな障害となる事もあります。

こんな時、降雪や吹雪による「視程障害」という言葉が使われます。

視程とは空を背景に黒っぽい対象物(視角 $0.5 \sim 5^\circ$)が、目視で視認できる最大の距離をいいます。

そして、視程障害とは空気中に浮遊物があると、それによって光が散乱・吸収・反射されて減衰するため、私たちの目に届く光の量が少なくなり、周りの景色が見えづらくなる事をいいます。

降雪や吹雪によって雪が舞っている場合でも同様に視界が悪くなりますが、霧のような小さな水滴とは異なり雪片は目に見えるほど大きいので、その視程障害も少し異なります。

降雪時に車の運転をした場合、目の前を運動している雪は、私たちの目には残像のため点ではなく線状に見えます。

そのため、同じ雪の降り方でも、その移動する速度が速ければ速いほど、肉眼で感じる視程は、より悪く感じます。

吹雪による視程障害と雪の移動量の関係を調べると、雪の移動量(すなわち空気中の雪の濃度 $\times$ 風速)が大きいほど、視程が低下する傾向がはっきりしています。



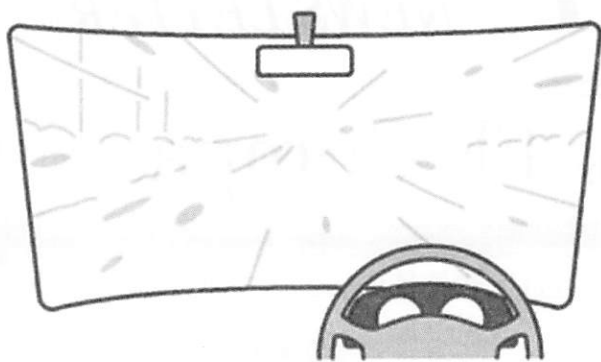
雪の量 $\times$ 風速が大きくなると
視程が低下する



強い降雪で視界が悪くなることがありますが、強い風によっても視程障害となることもあります。

冬期道路では、雪・風の情報に注意が必要で、特に、太平洋北部に大型の低気圧が発達している状況では、北日本や日本海側を中心に猛吹雪となりやすく、用事が無ければ運転を控えた方が賢明と言えます。

物が周囲と区別して認識できるためには、そのコントラストに差があることも重要です。



周囲が白一色となる冬の道路では、道路と景色の区別がつけにくくなるため、実際の視程よりかなり悪く感じる場合があります。

時にはホワイトアウトと呼ばれるように、白い雪のほか何も見えない状態になる事があり注意が必要です。

視程障害はどんなときに起きやすいかというと、まずは気温が低く風の強い時です。

気温が低く、風速が8m/s以上になると、雪面



の雪が目の高さ以上に吹き上げられるようになり、これを高い地吹雪と呼びます。

1.2mを越えて雪が舞うようになるので、ドライバーの視界を奪い、厳しい視程障害を及ぼす場合があります。

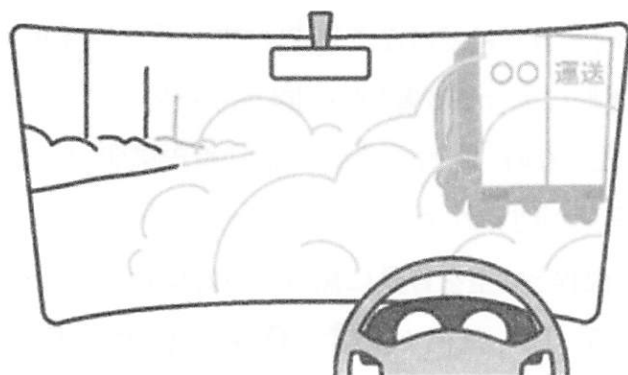
逆に風速がそれほど強くない場合には、飛雪は雪面付近の低い位置を這うように飛び、これを低い地吹雪と呼びます。

低い地吹雪では必ずしも視程障害となりませ

んが、路側の雪山(雪堤)が高いと、そこから吹き出す飛雪がドライバーの目線に達するので視程障害となります。

降雪量が多く路側の雪山が高くなっているときには風があまり強くなくても視界不良に注意が必要です。

また、風がなく雪が降っていないくても、大型車が巻き上げる雪煙によって視界が一瞬にして奪われることがあります。



大型車の追い越しによる雪煙では、一瞬のうちにホワイトアウトの状態となり、不意をつかれることもあります。

特に、降雪直後で道路上に新雪が積もっている場合には、対向車や追い越し時の雪煙に注意が必要です。

日中の吹雪による視程障害時での運転は、低速走行となるだけでなく、加速や減速を繰り返すような運転挙動が目立つようになります。

また、周囲の気象の変化に反応してブレーキを踏むこともあります。

ハンドルの左右の動きも多く、車両がふらつきやすくなりますので、充分気をつけましょう。



◇単利と複利のはなし

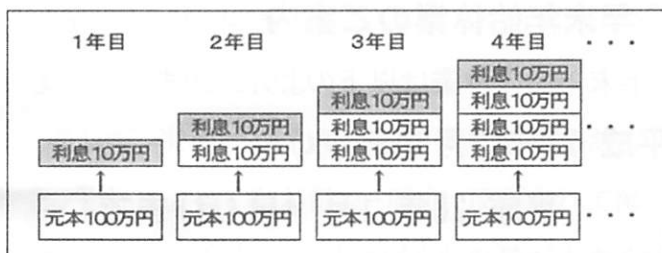
資産運用において知っておくべき重要な言葉に「単利」と「複利」があります。

その違いは利息のつきかたですが、運用期間が長ければ長いほどその違いは大きくなります。

単利は、当初預け入れた元本に対してのみ利息がつく計算方法です。

例えば100万円を年利10%で単利運用(現在ではあり得ないような年利ですが、違いをわかりやすく説明するためにあえて設定しました。)した場合、毎年10万円の利息がついていくことになります。

つまり、当初の元本に対してのみ利息計算が行われます。



複利は、単利とは異なり運用期間中に発生する利息を元本に繰り入れ、それを新しい元本とし再投資をして利息を計算する方法です。

発生した利息が元本に加えられ再投資されていくので利息が利息を生んでいく形になり投資運用を行う場合には、大変有利です。

上記と同様に100万円を年利10%の複利運用を行った場合、1年目は利息が10万円つき、この10万円と当初元本の100万円を足した110万円が2年目の元本となり利回り計算が行われます。

つまり1年目の利息10万円も再投資されていることがわかります。

このように元金と利息が合計された金額に利息がついていきますので、複利のほうが高い運用効果が得られるのです。

1年目	2年目	3年目	4年目	
利息10万円	利息11万円	利息12万円	利息13万円	...
元本100万円	元本110万円	元本121万円	元本133万円	...

複利の効果は運用期間が長いほど効果の差は歴然となっています。

例えば単利10%で30年間運用した場合、元本を100万円とした場合、元利合計額は400万円になります。

ところが複利10%で同じ30年間運用した場合、元利合計額はなんと17,449,402円にもなります。

複利5%の場合でも30年間運用した場合、元利合計額は4,321,942円となり、単利10%運用よりも元利合計額が大きくなっています。

金融商品の実力を比較する際に便利なのが「年平均利回り」です。

複利運用の場合運用期間によって同じ年利でも運用効果が違ってきますので、複利運用で得られた利息を1年あたりの額に平均化し、その額を示したものです。

複利10%を30年間運用した場合の年平均利回りはなんと54.83%にもなりますが、10年間運用の場合は元利合計額が2,593,142円で年平均利回りは15.93%となります。

複利5%の場合、30年間運用の年平均利回りは11.07%で、10年間運用の年平均利回りは6.29%となります。

このように、複利の効果は利率が高く運用期間が長いほど有利になりますが、超低金利時代においても複利の効果はあります。

すぐに利用しないような資金があれば、複利で長期に運用することで、資産を安定的かつ大きく育てることができます。

◇FPコンパスの業務拡大

皆様によりよいサービスの提供をいたしたく業務を拡大することにしました。

個人のお客様には、従来のFPコンサルティングに住宅ローンの取扱を開始いたしました。

当社で取扱の住宅ローンは「フラット35」をメインとして扱い、長期にわたって(最長35年)返済プランの変わらない固定金利を提供できるようになりました。

さらに住宅建築コーディネーターの資格も取得しましたので、FPの知識をフルに活用して、住宅に関する資金計画、住宅購入相談、ライフプランの作成、住宅ローンのコンサルティング、生命保険、火災保険、長期所得保障保険等、住宅購入に関わる総合的なアドバイスを目指しております。

企業や経営者の皆様向けに、独立行政法人中小企業基盤整備機構の「小規模企業共済」および「経営セーフティ共済」の取扱を開始することになりました。

小規模企業共済は従業員20名以下の企業経営者様や個人事業主様の資産形成制度として古くから利用されている制度です。

掛金が所得税より全額控除(限度あり)される

有利な積立プランでありながらも、共済金受取時にも所得税など優遇されています。

経営セーフティ共済は、お取引先の倒産などにより売掛金債権等が回収困難となったときに回収困難となった売り掛け金債権等の額か共済掛金総額の10倍に相当する額(最高8千万円)のいずれか少ない額を無担保・無保証人で借りることができます。

掛金が全額損金または必要経費となりますが、掛金納付月数が40ヶ月過ぎますと、任意解約でも100%の解約手当金が支給されます。

取引信用保険もですが、企業活動には欠かせないリスクファイナンスのひとつといえます。

◇年末年始休業のご案内

年末年始の休業は以下ようになります。

平成 27年12月30日(水)～

平成 28年 1月 4日(月)まで

損害保険各社の「事故」発生時の連絡先

(携帯でも使用可、365日24時間対応)

当社では、恐れ入りますが休業中、留守番電話対応となり、1月5日(火)以降に各担当者から連絡、または訪問をさせていただきます。

あいおいニッセイ同和	0120-024-024
三井住友海上火災	0120-258-365
損保ジャパン日本興亜	0120-256-110
セコム損害保険	0120-210-545

発行者 有限会社 FPコンパス

武田幸夫 大木隼人 後藤陽子 多田恵子
土赤 妙 佐藤礼子 武田浩幸

〒994-0063 山形県天童市東長岡2-1-34

TEL 023-658-3512 FAX 023-658-3513

E-mail postmaster@fpcompass.co.jp